演題名：新型コロナ治療薬の Up-to-date
演者：前仲勝実
北海道大学薬学研究院・教授
抄録：
ウィルス感染症をコントロールするにはワクチンと治療薬の組み合わせが重要です。新型コロナウィルスのパンデミックでは迅速な治療薬の開発を目指し、既存薬の評価がまずは検討され、ウイルス増殖を抑えるレムデシビルや重症化を抑えるデキサメタゾンなどが見出されました。次に、活躍した治療薬は、新型コロナウィルス特異的に感染を抑える中和抗体となります。その後ワクチン接種が進み、大きな効果が見られています。しかし、ワクチンの壁をすり抜けてしまった場合には、重症化を抑える治療薬が必要となります。そこで、軽・中等症の患者への治療として、より簡便に投与可能な経口薬の開発が望まれています。現在は、メルク社のモルヌピラビルが承認され、さらにファイザー社のパクスロビドや塩野義製薬の化合物も検討が進んでおります。また、新たな変異株であるオミクロン株への対応も大きな課題となっています。今回の講演では、治療薬開発の経過を紹介しながら、中和抗体及び化合物の治療薬の持つ特徴を説明し、今後の展開を考察したいと思います。